

---

## 俺×恋メイドは(妹) 2 ～The Quantity Mind Story～

森神。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺×恋メイドは（妹）2 The Quantity Mind  
Story

### 【Nコード】

N1175G

### 【作者名】

森神。

### 【あらすじ】

前作『俺×恋メイドは（妹）1 The Beautiful Spring Story』の次期作舞台は東京都秋葉原ウソ×真実杯

**（前書き）**

前作の次期作

ゲームにはならない完全オリジナル作品

皆さん、こんにちは。

たにやまたかし

谷山高志です。

今居るのは、東京都です。隣に居るのは上野美春うえのみはる名前は違うけど、妹です。前作を読んでいただいた人なら分かります。

あつ、何故東京都に居るかって？実は最近、ハルが好きな歌手が出来たらしく、ライブを見に連れてつてと頼まりました。しかし、少し疑問が…

「なあーハル？」

「ん？」

「何故…秋葉原！？」

「あゝ、えゝと、コンサート会場がアキバだから…。」

「いや、それは分かる。」

「つまり、アニソンとかの歌手なのか？」

「いいや、違うよ。」

「じゃあ誰だ？」

「…教えない。」

「そんなことよりも、欲しい物があるんだ。」

「へゝ、あつ、そうだ！このお兄様買ってやるよ。」

「本当！やったゝ」

「いくら位なんだ？」

「2ゝ3万位。」

「…！。分かった。ちょっとギリギリだけど買ってやるよ。」

いつも、お世話になってるんだ、帰りの新幹線代なんてどうとでもなる！それが男つてもんだろつ。

ハルに連れられ、店に来た。

「……………！」

コ、コ、コ

「コスプレショップ！」

俺は…。男なんてどうでもいい！いますぐダッシュで帰りたい！

「お兄ちゃん、ついてきて。」

つくづく俺は…

不幸だよ。

気付いた頃には時すで遅し。

昔の人はイヤな言葉を残してくれたよ。

2万2500円の出費か…

新幹線代は、なんとか残って居るからよかったけれども…

「なあー、ハル。何買ったんだ？」

「ヒ・ミ・ツ」

「てか、お兄ちゃん見てたでしょ？」

「ゴメン。何か意識無くて、覚えてない」

「ふーん」

あゝあ。

何時間が過ぎたのだろう。

コスプレショップの以来、ほとんど意識無かったからあんまり覚えてないや。

そういえば、某同人ショップにも行ったな。

「お兄」

「お兄ちゃん」

どこからか声がする。

妹系アニメの声だな。

聞きおぼえある声だゝ

ちがう！ハルの声だ。

「ん、どうした。」

「お兄ちゃん元気ないね。どうかした？」

「いや…どうもしてないよ。」

してます。無茶苦茶どうかしてます。

「ハル。大丈夫か？」

「ん？」

「いや、なんでもない。」

「そんな事より、コンサートって何時からだっけ？」

「…ねえ、お兄ちゃん。今日って、何月何日だっけ？」

「え、7月8日だけど…。それがどうかしたか？」

「何の日だっけ？」

「え、いや、何かの日なのか？」

「…今日は、お兄ちゃんの誕生日だよ。」

「…え！」

「お兄ちゃんの好きな歌手は誰？」

「山田高次さんだけど。…」

「お兄ちゃん、知ってる？」

「ん、何を？」

「私ね、山田さんと親戚なの。」

「…@！」

「それでね、お兄ちゃんのために。スペシャルコンサートを開いてくれる事になってるの！」

思いもしなかった親 事実には戸惑う俺。

「…マジか！」

「うん。」「よし、コンサート行くぞ！」

前言撤回！妹最高。

「んじゃ、帰ろうっか。」

「は？」

「コンサートは？」

「会場は、家だよ。」

「じゃあなぜアキバまで？」

「欲しい物を買いに来ただけ。」

ウチの妹には、怪しげな趣味があります。

時刻は9時―

家に着きました。

「ただいま。」

「誕生日おめでとう谷山高志君。」

「……………」

山田高次さん！

「お兄ちゃん。誕生日おめでとう。」

ハル…

「今宵は、スペシャルコンサートだ！」

「オーー！」

リビングに行く。

元コックの親父の豪華フルコースがテーブルの上に並んでいた。

「お兄ちゃん、ちょっと待ってて。」

「ん？」

「それじゃあ、一曲目」

お、始まった。今はハルよりも、山田高次さんだ。

それにしても、最高だ！美味い理科に最高の歌！

「お待たせ！」

ハルが戻ってきた。

「ご主人様！」

ハルは、メイド服を着ていた。

「それって…」

「そう、お兄ちゃんに買って貰ったやつ」

「ゴメン。お前の趣味は最高だ！」

「え？」

ん、なんだ、読者よ。

その白い目は？

羨ましいか？

俺は…最近思っんだ

妹が好きなのかな…って。

いや、メイド萌えだな。

「『俺×恋メイドは（妹）』このタイトルで小説が書けそうだ。」

「え！」

「世の中捨てた物じゃねえな。」

「今日は、聴いてくれてありがとう。」

終わったな。

「アンコール、アンコール」

一樣言うのが礼儀だろ。ま、本心で聞きたいけど。

「んじゃ、もう一曲いくか！」

「と、その前に。」

山田高次さんは、ワイングラスを手に持った。

「谷山高志君に、カンパニー！」

ハルがクラッカーを鳴らした。

「カンパニー！」

ハルと、親父が後に続いた。

俺は、心の中で呟いた。

「ハル。いや、メイドにカンパニー！」

（後書き）

ご愛読ありがとうございました。

機会があれば、俺×恋メイドは（妹）  
3  
でお会いしましょう

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1175g/>

---

俺×恋メイドは(妹)2 ~ The Quantity Mind Story ~

2010年10月8日23時32分発行